

本・部・長・退・任・挨・拶

技術士が明日を 切り拓く 会友から会員へ

この度、4 年間に亘り支部長から地域本部長を務めさせていただきましたが、退任することになりました。任期中、会員の皆様始め会友の皆様にも他人方ならぬご支援をいただき、熱く御礼申し上げます。

さて、任期中に(社)日本技術士会は、公益社団法人に認定されることとなり、定款を始めとする様々な規則も大きく変わりました。これまでの様々な改革の中でも、このような大きな改革はなかったかと記憶しております。北海道支部も北海道地域本部と変わり、今年は新任の地域本部長のもと、記念すべき第 40 回技術士全国大会が、ここ札幌で開催されることになっております。

この間の平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災は、私達、科学技術者の心を大きく揺さぶりました。科学技術を駆使し社会に貢献して行く事の大切さをまざまざと見せつけられたからです。昨今、分野は違いますが医学の分野では、iPS 細胞がその世界の常識を覆させようとしております。私達の分野でも、大津波や大地震への対策の常識が、ハード面ソフト面共、新しい発想による常識の再構築が必要であることが解ってきました。また、科学技術は医学と同じように人類を救い明日を切り拓く手段と成り得ることも解ってきました。

私たち技術士は、企業内技術として社会へ貢献してゆくことはもちろん大切なことですが、同時に様々な分野の人々と技術交流や異業種交流を行い、社会が今必要としているニーズに素早く対応していくことが肝要ではないかと思えます。

さて、平成 19 年に技術士会会員の定義が全国的に統一化され、北海道技術士センターも発展的に解

斉 藤 有 司 (さいとう ゆうじ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 本部長



散いたしました。あれから 5 年の月日が経ちました。今回の公益社団法人に伴う改革では、全国にあった会員以外を含む県技術士会は県支部へと装いも変わり会員のみで構成され、(公社)日本技術士会傘下の組織として続々スタートしております。

心残りなことがあります。全国の中で、会員以外の技術士の組織として「会友」と呼称されているのは、とうとう北海道だけになってしまいました。この会友制度は、会員拡大の方針の中で、北海道技術士センターの会員が、本会員への入会の理解を促す過渡的手段として考えられたのが動機でした。確かにこのような方針もあって全国の中で、会員の増加率は平成 19 年以降全国的に群を抜いていました。しかし、今、会友の皆様と早急に社会的な認知を受け共に活動をする必要性を感じております。

「会友」の皆様をお願い致します。全国的な組織の動向をご賢察頂き、本会への入会を検討して頂けないでしょうか？

今すぐ「会友」の呼称制度を止める気はありませんが、近い将来には「会員」中心の組織へと活動を集約し、社会の付託に応えて行く必要があると考えております。

将来、出来る限り多くの技術士資格者が日本技術士会という一つの組織に集約され活動できるよう、並行して会員そのものの根本的な制度検討が必要であることは言うまでもありません。